

米国務長官、韓国の日韓軍事協定破棄に「失望した」

2019/8/23 3:31 (2019/8/23 3:58更新) | 日本経済新聞 電子版

【ワシントン=永沢毅】ポンペオ米国務長官は22日、韓国が日本との軍事情報包括保護協定（GSOMIA）の破棄を決めたことについて「失望した」と表明した。訪問先のカナダでの記者会見で語った。米国防総省も声明を出し、韓国の決定に「強い懸念と失望」を示した。米政府高官が同盟国に失望を表明するのは極めて異例だ。

ポンペオ氏は22日朝に韓国の康京和（カン・ギョンファ）外相と電話協議したことを明かした。「日韓の共通利益が米国にとって重要なのは疑いがない」と強調。対北朝鮮だけでなく「世界中の課題に対処するのに日韓両国との連携が重要だ」と訴えた。日韓が対立を早期に解消し、正常な関係に戻るよう重ねて期待を示した。

国防総省は「日韓関係で他の領域で摩擦があったとしても、私たちの相互防衛と安全保障の連携の一体性は続かなければいけない」と強く信じている」と力説。今後も「可能な分野で日韓との2国間、3カ国の防衛協力を追求し続ける」との方針を示した。

これに関連し、米政府高官はフランスの主要7カ国（G7）首脳会議にあわせて予定される日米首脳会談でこの問題が議題になる可能性について「経済、安保を含む幅広い事柄を議論するだろう」と述べるにとどめた。



ポンペオ国務長官(左)はGSOMIA破棄に失望を表明した。右はカナダのトルドー首相（22日、オタワ）＝AP

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。